

Centre」の道路標識を見るたびにこの街には主教がいるものとばかり思いこみ、例の修道院を大聖堂だと信じて疑わなかったのだ。あの小さなウェルズ大聖堂がこの世界遺産にもなっている立派な街を管轄しているという事実を知ったのは実はごく最近のことなのである。

## 2001年度 夏期アメリカ・ セミナー雑感

法学部

片岡 邦好

この4月よりアメリカ交流委員に就任し（と申したらもうこの委員会は改組されましたが）、夏期海外研修の引率で、初めてこのサウスイースト・ミズーリ州立大学（Southeast Missouri State University）のあるアメリカ、ミズーリ州、ケーブジラードー（Cape Girardeau）を訪れました。ミシシッピ川沿いのこの町の由来は、まだアメリカ南部がフランス領だった18世紀、この地の監督官（？）だったフランス人Girardotにちなんで名づけられました。ミズーリという何やら南部の香り漂う地域性と（実際は南部と中西部の境界線辺りだそうです）、サウス・イーストという地方的な響きのためか、田舎の小さな大学を想像していましたが、これがなかなか立派で美しいキャンパスに少なからず驚きました。数あるアメリカの大学の中でも間違いなく平均以上に位置すると思います。日本で一番美しい大学がどこか、といった調査結果があるかどうか知りませんが、もし日本にあれば一・二を争うことでしょう。学生数8000人強の割には広いキャンパスと、緑に囲まれ起伏に富んだ丘陵に立つ、石造りの瀟洒な建物は歴史を感じ

させます（1873年設立）。また、アメリカの大学では良く見かける光景ですが、木々にはリスが走り、あたりを鳥が（そして夕方には蛍も）飛び交う様子は心休まります。そして町外れを流れるのは、トム・ソーヤーで有名なミシシッピ川です。日本の大学は、ハード面では土地が限られているだけでなく、「ぼろは着てても心は錦」的精神論で建物に金をかけず（逆に、建物ばかりに金をかける「ハコもの大学」への批判もあります）、学生の入学時の偏差値ばかりが強調されて、入学してからの環境とサポートへの配慮が少ない気がします。（ソフト面としての教授陣・大学運営があまり問題にされないことにも問題があります。）ハード面ばかりをいじるのは姑息だといった通念があるのかもしれませんが、「衣食足りて礼節を知る」とまではいかなくても、物心両面で「ぜひここで勉強したい」と思わせる環境作りは、その後の学生の成長にとって大きな要因だと感じました。（とはいえ、学校間の学籍異動が容易にならなければこれによるメリットは十分生かされないかもしれませんね。）

また何といても、生活面で気になるのは食事の質です。この大学のカフェテリアは、これまで訪問したアメリカの大学の内でも（5—6校しか比較できませんが）上位に位置します。これと違ってずば抜けたものはありませんが、全般的に「食べられます」。町には数軒の中国料理店とかなりいけるタイ料理と中近東料理の店がありますが、日本食レストランはありません。留学生の最大派閥である日本人（多いときは100人以上いるらしい）がこれだけいて、一軒もないのは不思議です。腕に覚えがあつて一旗挙げたい向きにはお勧めの地です。しかし娯楽施設はほとんどないので、家族持ちには落ち着いた町でも、若者には退屈な町かもしれません。そのせいで、平日は学校にいて週末はセントルイス（車で2時間くらい）などに遊びに出かけるようです。今回英語担当のDr. McCannはこの状況をして、“suitcase university”だなどと皮肉っていましたが、街に住みわたる昨今の若者の気質を反映した表現です。

滞在中はおおむね天候に恵まれました。しかしこれも運が良かったからのようで、例年のケープは日本同様蒸し暑く、もう夏はうんざりというのが本音のようです。今年はというと、雨も少なく気温もそれほど上がらず、地元の人によれば8月上旬までは9月のような過ごしやすい夏だったようです。しかし8月20日を過ぎて本格的に蒸し暑くなり、日中はちょっと外に出るのもおっくうなくらいでした。ひとたび屋内に入れば全館冷房でガンガン冷えてますから（彼らには節電という発想はないらしい）、居場所に困ってしまいます。私は来客用の宿泊施設にいましたが、空調が良すぎて毎晩震えていました。



ミネソタ州ミネアポリスにある  
アメリカ最大のモール、Mall of America.  
屋内遊園地もある

町には小さなモールがひとつあり、少ないながらもおしゃれな店も入っています。しかし三好のジャスコ、豊川のSATYには遠く及ばず、侘しささえ感じさせますが、小さい分気軽に、お手軽に買い物が出来ます。（いわゆる大型量販店は、他にも

幾つかあります。）しかし、そこはアメリカ、モールまでのバス路線がないので車がなければどうにもなりません。結局自分で行ったのは、同行の引率者の方と一緒に買い物に出かけたとき限りでした。（大学からそのモールまでタクシーで7ドルくらい。）実はミズーリに行く前に、ミネソタにいる友人宅を訪問したのですが、そのついでにミネソタ州、ミネアポリスにあるあの有名な「モール・オブ・アメリカ」（アメリカ最大のモールで屋内遊園地などもある）に行ったので、そのギャップに…別に驚きませんでした。広すぎてかえって疲れるので、小さいのもそれなりのメリットかな、という気もしました。

町自体は落ち着いていて、治安面でも非常に安心できます。土地家屋の値段も安く、こっそり聞いたところでは、大学に隣接した環境の良いところで、地下を含めて3階建ての10部屋以上ある家屋と、さらにその倍はある巨木の立つ庭を含めて20万ドル（約2500万円）くらいではないかとの答えでした。（なんか書いて損した気分になってきた…）そして、遠く大学の北の丘陵地には、まさに大邸宅がニョキニョキと聳えています。面白いことに、アメリカのほとんどの町は大体北部が高級住宅街で、南に低所得者層の地域があり、治安もあまりよくないことが多いのですが、このケープも例に漏れず、まさにその系統を反映しています。ある人は南北半球の経済格差の反映だなどと揶揄しますが、そういった暗黙の認知地図が、アメリカ人の頭の中に出来上がっているのかもしれない。もうひとつの傾向は、高いところとビーチが好きなこと。お金持ちは山の中腹とか丘の上、またはビーチに好んで住みます。平民は平地なんです。まあ、わからないではありませんが。

幸いセミナーも無事終わり、今年は例年より一週間早く、9月上旬に帰国しました。そして一週間後にあの同時多発テロが発生しました。これが今後海外セミナーにどのような影を落とすかわかりませんが、これからも安全なセミナーが行われ、ますます多くの学生諸君が海外生活と文化に親しめることを心から祈ります。